

青野原俘虜収容所再現コンサート

<時空をわたる楽の音>

WONFESTTAKETS KONZERT
DER LAGERKAPELLE AONOYAHARA
ZUGUNSTEN UNSERER NOTLEIDENDEN KAMERADEN IN
OST-SIBRIEN.
SANTAL, BERNARDINI, LEROUX & STEIGER
RAYMOND OUERRE
& REVERE
& SOULJES LED
NORMA
FLOOR-
WUTAR



主催：小野市、小野市教育委員会、神戸大学
講演：小野の歴史を知る会

青野原俘虜収容所再現コンサート

～時空をわたる楽の音～

今から約100年前の1914年、ドイツとオーストリア(当時はオーストリア=ハンガリー帝国)は中国・青島の地をめぐる、日本と戦いました。これは、第一次世界大戦における対立構図が極東にも持ち込まれた戦いでした。青島での戦闘は日本軍が勝利し、ドイツとオーストリア=ハンガリーの兵士たちの多くは、捕虜となりました。

日本に移送された捕虜兵たちは、日本各地(板東、習志野など)に作られた俘虜(=捕虜)収容所に分けられ、終戦までの4年間以上を祖国から遠く離れた地で過ごしました。

そのような俘虜収容所の一つが、「青野原俘虜収容所」です。青野原は現在の兵庫県小野市と加西市にまたがる地域です。そのうち特に小野市と地域連携協定を結んでいる神戸大学は、これまで青野原俘虜収容所の実態究明に協力してきました。その成果は、小野市立好古館(2005年)、神戸大学(2006年)、オーストリア国立文書館(2008年)、在日オーストリア大使館(2009年)と公開されてきました。同じく、収容所内で行われていた音楽会を蘇らせる試み「再現演奏会」も、神戸大学交響楽団の協力を得て開催してきました。

今回も、展示会「青野原俘虜が見た日本—新発見の俘虜撮影写真から—」(小野市好古館、10/1～30)の開催にあわせて、「再現演奏会」を開催いたします。東京での演奏会に引き続き、習志野俘虜収容所での演奏会を再現する試みを行っていただける「町の音楽好きネットワーク」にご参加いただきました。「町の音楽好きネットワーク」の「柵を越えたMUSIC」と題した舞台では、映像とともに当時の音楽が演奏されます。

異国の地で俘虜たちが奏でた音楽や当時の世界であふれていた音楽の数々が、<時空をわたる楽の音>として蘇ります。90年余り前の捕虜たちの生活に思いをはせ、お楽しみください。

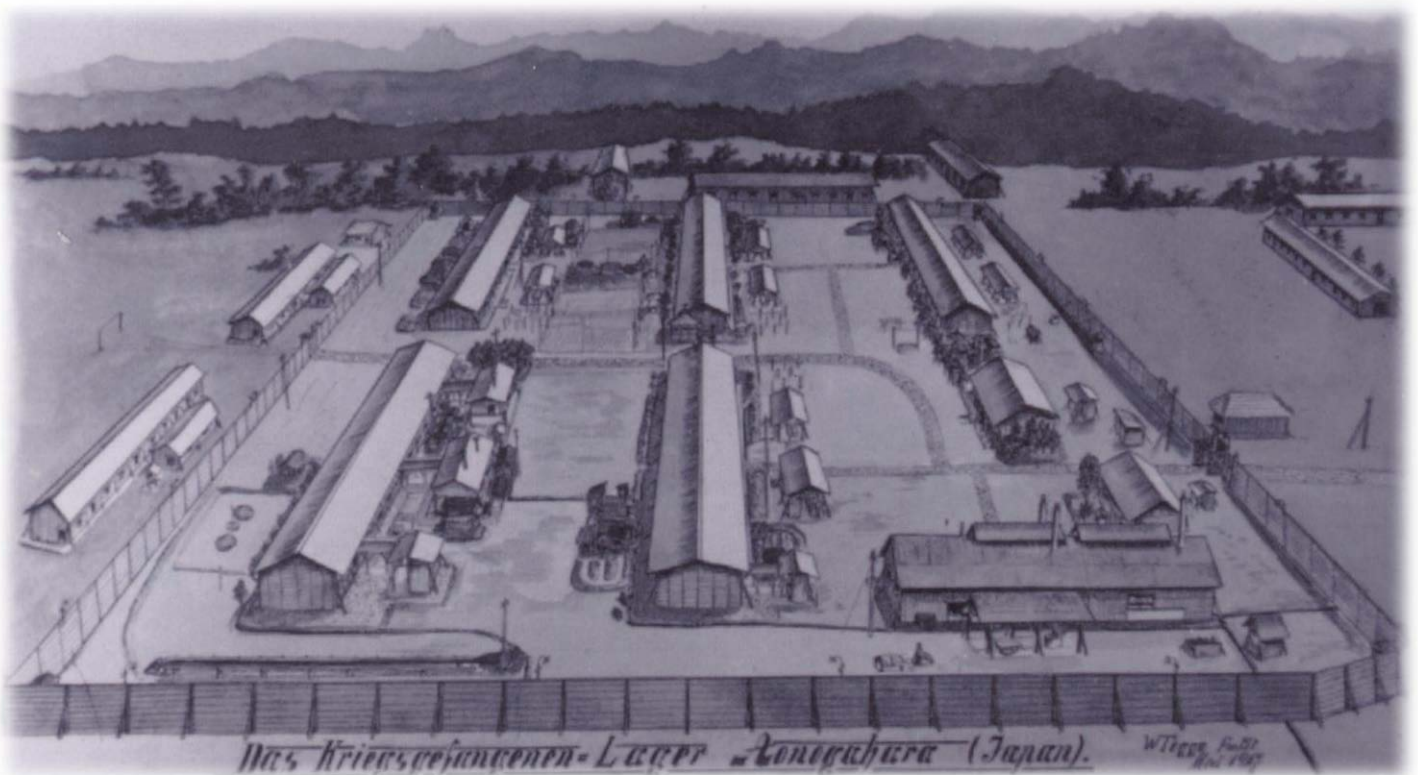


ウィーンでの演奏風景

青野原俘虜収容所

第一次世界大戦当時、青野原俘虜収容所には 500 名近くのドイツ、オーストリア=ハンガリー兵が捕虜として生活していました。このうち、オーストリア=ハンガリー兵が 230 名余りで、日本に収容されたオーストリア=ハンガリー兵の約 8 割が青野原に収容されていました。

収容所内では、捕虜たちは比較的自由に行動することができていましたので、外の世界から隔絶された場所での時間を趣味や娯楽に費やしていました。宿舎内で、ビリヤードやトランプ、読書に興じたり、ときには野外でスポーツに汗を流すこともありました。



青野原俘虜収容所全景図(ディルク・ファン・デア・ラーン氏提供)



↑ビリヤードをする捕虜たち
サッカーの試合をする捕虜たち→
(ディーター・リンケ氏提供)



捕虜たちと地域

青野原に収容された捕虜たちの中には、多くの技術者が含まれていました。 年 月に開催された「俘虜製作品展覧会」には、捕虜たちの手による様々な作品が展示され、販売もされていました。この展覧会には地域の人たちが訪れ、評判になっていました。

また、捕虜たちが遠足などで収容所の外に出かけて行った際、近隣の住民たちとの交流があったことを示す写真も発見されています。



俘虜製作品展覧会の様子(ディーター・リンケ氏提供)



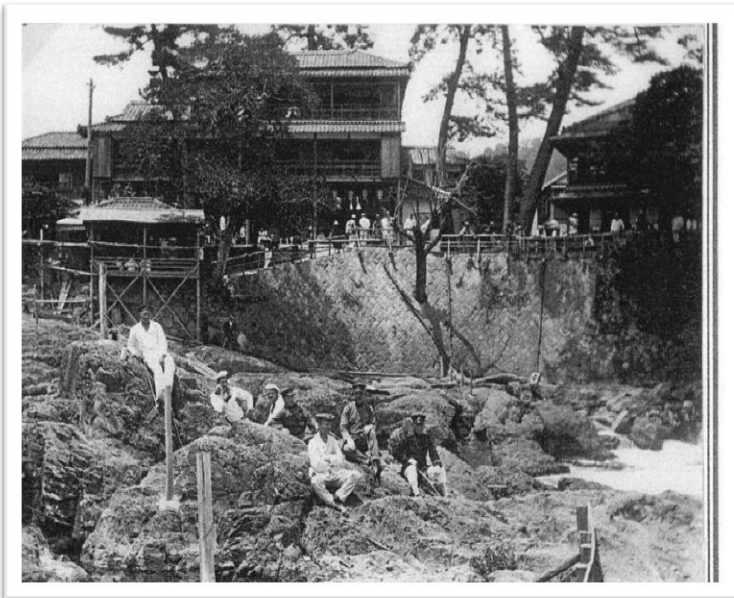
(左)俘虜製作品「刺繍」(個人蔵) (右上)俘虜製作品「灰落(井戸型)」(個人蔵)



(右下)俘虜製作品「絵葉書」(個人蔵)



地元の人たちとの記念写真(ディーター・リンケ氏提供)

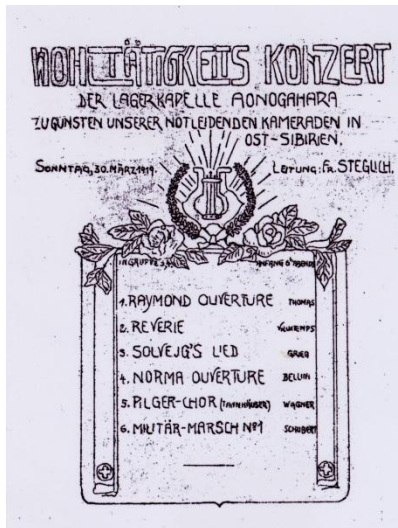


閼龍灘にて(ディーター・リンケ氏提供)

捕虜たちの演奏会や演劇会

右の図は、1919年に青野原俘虜収容所で開かれた「慈善演奏会」のチラシです。ここには、「東シベリアで苦しんでいる仲間たちのために」と記され、ロシア革命の影響で帰国できない同胞への祈りを込めた演奏会であったことがわかります。

このような演奏会や演劇会が、青野原俘虜収容所では何度も開かれていました。



慈善演奏会

青野原収容所楽団

シベリアで苦しんでいる仲間たちのために

1919年3月30日 指揮 FR.シュテューゲル

1 歌劇「レーモン」序曲

2 レヴリ

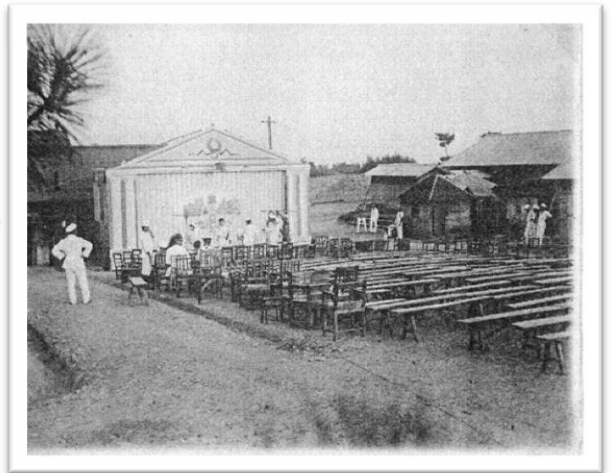
3 ソルヴェイグの歌

4 歌劇「ノルマ」序曲

5 巡礼の合唱(歌劇「タンホイザー」より)

6 軍隊行進曲第一番

慈善演奏会のチラシ (ディルク・ファン・デア・ラーン氏提供)



←収容所内イベントのプログラム(ディルク・ファン・デア・ラーン氏提供)

↑収容所内に作られた野外舞台(ディーター・リンケ氏提供)



↑演劇「壊れ鐘」の様子 (ディーター・リンケ氏提供)

→扮装をする捕虜たち (ディーター・リンケ氏提供)



演奏者紹介—町の音楽好きネットワーク

よく聞かれます。「町ネットってなあに？」

立ち上げて15年です。スーパーが出来る前は町に肉屋さん、八百屋さん、魚屋さん…と店がありました。そこで買い物カゴを下げたおばさんたちが話をしていました。そういう店のように、町に音楽をしている人の顔が見えて、近所のおじさん、おばさんが気楽に演奏を聞きに来てくれたらいいなあ。それが出発でした。

演奏する私たちは近所だったり、同じアパートだったり、音大の同期だったり先輩後輩だったり。号令をかけると、歩いて、自転車で、車で10分あれば全員集合です。

私たちの自慢は毎回、違う内容の音楽会をするということです。伝えたいことを話し合い、曲目を考えます。そしてチラシのポスティング（多い時には数万枚！）からポスター貼り、何でもします。本拠地は習志野市大久保。一度是非、いらしてください。

（文：戸田志香）

町の音楽好きネットワーク事務局 Tel：047-472-9706

パート	名前
聲	大田中 早苗
	戸田 志香 ゆきこ
ヴァイオリン 提琴	樋口 菜穂美
フルート 吹笛	林 涼子
ピアノ 洋琴	林 麻由美
	高砂谷 麻子



町の音楽好きネットワーク

演奏者紹介—神戸大学交響楽団

神戸大学交響楽団は、1915年に結成され、100年近い歴史を持っています。サマーコンサートと冬の定期演奏会を活動の柱として、その他イベントでの依頼演奏、式典演奏やソロ、アンサンブルなど幅広い演奏を行っています。現在、団員数は約120名。そのなかの40名が本日の演奏者です。

編曲・指揮の田村文生准教授（神戸大学大学院人間発達環境学科）は現代日本を代表する若き作曲家として数々の秀作を発表、神戸大学で作曲理論を教授する傍ら、国内外で活発な音楽活動を展開しています。

神戸大学交響楽団 Web ページ
<http://home.kobe-u.com/symphony/>

パート	名前	所属学部等
Violin	池 辺 正 大	農 学 部4年
	武 田 奈々子	神 戸 松 蔭 大4年
	得 本 和 音	発 達 科 学 部4年
	山 本 明日美	発 達 科 学 部4年
	青 柳 翔 丸	経 営 学 部3年
	工 藤 将 雄	経 営 学 部3年
	澤 井 梨紗子	発 達 科 学 部3年
	東 堂 ちひろ	神 戸 松 蔭 大3年
	高 橋 奏 子	発 達 科 学 部2年
	林 美 侑	法 学 部2年
	藤 井 優 子	理 学 部2年
Viola	近 藤 育 海	文 学 部4年
	別 府 真 衣	発 達 科 学 部4年
	田 畑 薫	文 学 部3年
	西 森 瑛 子	経 済 学 部3年
Violincello	佐久間 一平	工 学 部2年
	福 田 文 明	兵 庫 県 立 大2年
	松 田 莉絵子	経 済 学 部2年
	岩 永 薫	関 西 学 院 大1年
ContraBuss	西 村 春 香	法 学 部4年
	角 本 智	経 済 学 部1年
Flute	岩 本 園 加	文 学 部2年
	小 林 水 里	農 学 部2年
Oboe	鈴 木 富 恵	理 学 部4年
	久保田 陽子	国 際 文 化 学 部3年
Clarinet	梶 田 伸 明	経 営 学 部3年
	金 子 知 世	工 学 部3年
	間 嶋 優 香	文 学 部1年
Fagotto	三久保 有紗	神 戸 松 蔭 大1年
	池 宮 六 季	工 学 部4年
	岩 田 奈々	文 学 部3年
Horn	檜 川 奈津美	工 学 部3年
	紫 垣 沙 央	理 学 部2年
	上 田 順 也	農 学 部2年
Trumpet	大 西 亜 弥	理 学 部2年
	岡 崎 正 悟	理 学 部1年
Trombone	岡 崎 正 悟	理 学 部1年
Tuba	牛 濱 裕 輝	法 学 部2年
	今 井 秀 人	医 学 部4年
Percussion	中 村 舞	法 学 部2年
	有 吉 周 平	経 営 学 部1年

演奏曲目

町の音楽好きネットワーク「欄を越えた^{音 楽}」

1. ヴァイオリンのための 閉じておくれ 僕の眼を
ハンス・ミリエス 作曲/伊地知元子 編曲
2. 恋はやさし 野辺の花よ
フランツ・フォン・スッペ 作曲/伊地知元子 編曲
3. ベアトリ姉ちゃん
フランツ・フォン・スッペ 作曲/伊地知元子 編曲
4. 春の声
ヨハン・シュトラウス 2世 作曲
5. ハンガリー舞曲第六番
ヨハネス・ブラームス 作曲
6. 俺たちやコーラス野郎~Ein Jäger aus Kurpfalz の替え歌~
日本語訳詞 「町ネット」/伊地知元子 編曲
7. アヴェ マリア
フランツ・シューベルト 作曲/ヴィルヘルミ 編曲
8. 美しく蒼きドナウ
ヨハン・シュトラウス 2世 作曲
9. 閉じてくれ僕の眼を
ハンス・ミリエス 作曲/伊地知元子 編曲/根本優子 訳詞

神戸大学交響楽団

1. 劇付随音楽「エグモント」序曲
ベートーヴェン 作曲
2. レヴリ
ヴェータン 作曲
3. 歌劇「バグダットの太守」序曲
ボワエルデュー 作曲
4. 交響詩「忠臣蔵」序曲
ハンス・ラムゼーガー 作曲

曲目解説 長野順子 (神戸大学大学院人文学研究科教授)

曲目解説一町の音楽好きネットワーク

閉じてくれ 僕の眼を (1917) *Schliesse mir die Augen beide*
ハンス・ミリエス (1883-1957) Hans Millies

ハンス・ミリエスは上海交響楽団の指揮者兼コンサートマスターであったが、青島で日本軍の捕虜となった。移送された習志野俘虜収容所では、男性合唱団や交響楽団を編成してベートーヴェンやヨハン・シュトラウスらの名曲を演奏した。ドイツの音楽学校出身の彼は、習志野のこの地で美しい歌曲を作曲した。近年その楽譜が子孫の家で発見され、ほぼ80年ぶりに現代に蘇ることになった珠玉の作品である。

ベアトリ姉ちゃん

恋はやさし 野辺の花よ/フランツ・フォン・スッペ (1819-1895) Franz von Suppé

スッペは、ダルマチア地方出身で、19世紀のウィーンで活躍した作曲家である。ウィーンの各劇場で指揮を振るう中、多数の舞台音楽を残している。このスッペ作のオペレッタ『ボッカチオ』が日本で公演されたのが、大正時代庶民に親しまれていた「浅草オペラ」であった。両曲はこのオペレッタからで、日本語訳詞がつけられ、長く人々に親しまれるヒット曲となった。

春の声 (1882) *Frühlingsstimmen*/ヨハン・シュトラウス 2世 (1825-1899) Johann Strauß II.

この曲は、「ワルツ王」ヨハン・シュトラウスが作曲したワルツである。ピアニストで作曲家のアルフレート・グリェンフェルトに捧げられた同曲は、リヒャルト・ジュネによって歌詞がつけられ、歌曲としてアン・デア・ウィーン劇場で初演された。作品名にもあるとおり、この曲は春を主要なモチーフにして、その春から連想される喜びと爽快さをも表現したワルツの名作である。

ハンガリー舞曲第六番 (1869) *Ungarische Tänze Nr. 6*/ヨハネス・ブラームス (1833-1897) Johannes Brahms

作者のブラームスは1850年代前半に、ハンガリー生まれでロマ(ジプシー)の血を引くヴァイオリニスト、レメーニの演奏旅行に参加し、その時ロマの民族音楽に触れた。ブラームスはこれをハンガリーの民族舞曲として世に送り出し好評を得た。「ハンガリー舞曲」は全部で21曲あり、もともとは4手用のピアノ曲として作られた。なかでも、「第5番」が最も有名であるが、「第6番」も緩急のあるテンポが特徴の楽しい曲となっている。

アヴェ マリア (1825) *Ave Maria*/フランツ・ペーター・シューベルト (1797-1828) Franz Peter Schubert

《シューベルトのアヴェマリア》は、多くの名歌曲を生み出した「歌曲の王」シューベルトが晩年に作曲した曲である。この曲はウォルター・スコットの『湖上の美人』のドイツ語訳に曲をつけたものであり、3大アヴェマリアの一つに数えられるほど有名で、非常にポピュラーな歌曲である。のびやかで心地のよい旋律で、シューベルトの歌曲で最も人気の高い曲の一つである。

美しく蒼きドナウ (1867) *An der schönen blauen Donau*/ヨハン・シュトラウス 2世 (1825-1899) Johann Strauß II.

父親も高名なウィンナーワルツの作曲家だが、息子が音楽家となることには反対していた。ヨハンは最初は大学で経済学を学んでいたが、音楽家として活動を開始すると自身で管弦楽団を設立し、やがて「ワルツ王」と称されるようになる。あまりにも有名なこの曲は、普墺戦争で大敗して失意の底にあったウィーン市民を慰めるために作曲された。合唱版も管弦楽版も現在にいたるまで広く親しまれている。

曲目解説—神戸大学交響楽団

付随音楽「エグモント」序曲 (1800) *Egmont Overture*

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770-1827) Ludwig van Beethoven

ゲーテの同名の戯曲にベートーヴェンが作曲したこの劇付随音楽は、序曲と 9 曲からなる。なかでも本日演奏される序曲は、圧政に抗し自由を求めて闘い、挫折し、処刑される英雄エグモント像の縮図となり、輝かしいコーダは正義の勝利をたたえるものである。この頃のベートーヴェンはすでに交響曲 6 番《田園》、ピアノ協奏曲 5 番《皇帝》などの力作を世に送りだし、まさにその成熟期へと向かっていた。

レヴリ (Op. 22 No. 3) *Réverie*

アンリ・ヴェータン (1820-1881) Henry Vieuxtemps

作曲者はベルギー生まれフランスで活躍した名ヴァイオリニスト。早くから才能を発揮して各地で喝采を浴び、シューマンに「小さなパガニーニ」と評された。作曲家としては特に 7 つのヴァイオリン協奏曲で知られている。この小品も原曲はピアノ伴奏つきのヴァイオリン独奏曲であるが、今回、管弦合奏用に編曲された。随所に意匠が凝らされた美しい曲となっている。タイトルは「夢想」の意。

歌劇「バグダットの太守」序曲 (1800) *Le Calife de Bagdad*

フランシス・アドリアン・ボワエルデュー (1775-1834) François Adrian Boieldieu

ボワエルデューはフランスの 19 世紀前半における代表的なオペラ作曲家である。一時期ペテルブルクの宮廷歌劇場に仕えたこともあったが、故国のパリ音楽院でピアノおよび作曲の教授を長らく務めた。オペラ・コミックの伝統を引き継いで「フランスのモーツァルト」と称されたが、ベートーヴェンと同世代である。彼の特徴であるオーケストラの色彩感と豊かで親しみやすい旋律は、この曲にもよく表れている。

交響詩「忠臣蔵」序曲

ハンス・ラムゼーガー (1867-1933) Hans Ramseger

ラムゼーガーは、ハンブルク出身の貿易商であったが、ヴァイオリンの名手でアマチュアの作曲家でもあった。彼は 1889 年以来神戸に在住し、のちにラムゼーガー商会を神戸の地で設立した。彼が作曲した『交響詩「忠臣蔵」』は、板東俘虜収容所のエンゲル楽団によって、1917 年 10 月 21 日に同収容所内で演奏された。また、序曲には、「由良之助の悲しみと復讐の計画」というサブタイトルがつけられている。

1987 年には、初演から 70 周年ということで鳴門市の徳島交響楽団がこの序曲を演奏している。今回は約 25 年ぶりの演奏ということになる。

青野原俘虜収容所再現コンサート～時空をわたる楽の音～

日時:2011 年 10 月 14 日(金)

場所:神戸大学出光佐三記念六甲台講堂

演奏:神戸大学交響楽団

講演:大津留厚(神戸大学大学院人文学研究科教授)

長野順子(神戸大学大学院人文学研究科教授)

日時:2011 年 10 月 16 日(日)

場所:小野市うるおい交流館エクラホール

演奏:町の音楽好きネットワーク

神戸大学交響楽団

講演:大津留厚(神戸大学大学院人文学研究科教授)

長野順子(神戸大学大学院人文学研究科教授)

平成 年度 小野市立好古館 企画展

青野原俘虜が見た日本～新発見の俘虜撮影写真から～

期間:平成 23 年 10 月 1 日(土)～平成 23 年 10 月 30 日(日)

場所:小野市立好古館 2 階展示室

主催:小野市、小野市教育委員会、神戸大学

後援:小野の歴史を知る会

小野市立好古館

Tel: 0794-63-3390/Fax:0794-63-3462

E-mail: kokokan@city.ono.hyogo.jp

神戸大学研究推進部連携推進課

産学官連携グループ

Tel: 078-803-5427/Fax: 078-803-5389

E-mail: ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp